

電話会議開催日：2022 年 2 月 8 日

2022 年 3 月期(2021 年度)第 3 四半期 決算電話会議 質疑応答

【質問者1】

- Q：粗利益について、第3四半期から第4四半期にかけて少し減益になるという見方だが、背景を教えてください。
- A：第3四半期から第4四半期にかけての売上総利益の減少については、セグメント別の増減としては製錬と「調整額」が大きい。製錬の減少は大部分がニッケル系の価格条件差および在庫評価によるもの。また「調整額」では、第3四半期にセグメント間の未実現利益の計上が大きかったことと、為替差によるものが大きい。
- Q：2点目として、決算補足説明資料1ページ下段の「その他」でプラス109億円となっている理由について、先ほど説明はあったが、もう少し教えてください。
- A：「その他」109億円については、相場要因や材料事業に含まれない持分法会社の損益の増減や、硫酸など副産物の好転が大きいほか、前回予想では一部リスク要因として保守的に見込んでいた部分があったが今回織り込まなかったことによる影響も含まれている。
- Q：3点目として、今回の金属価格前提より現在の価格は高めとなっており、もう少し利益が上がるということも試算上ありうると見ていいのか。
- A：市況については足元の相場は前提価格を上回っており、これが続くと上振れ要因になるというのはご指摘の通り。

【質問者2】

- Q：タガニート HPAL (THPAL) の停電は第4四半期にも影響が出ているか。どのくらいのインパクトがあるのか。また、短期間で解決すると見ていいのか。
- A：THPAL の12月の台風に伴う停電トラブルは一時的であったが、第4四半期予想まで減産の影響を見ている。
- Q：THPAL の減産の影響は数量差、コスト差の部分に含まれているということか。
- A：ご理解の通り。
- Q：2点目として、コーラルベイ (CBNC) の資材不足はどのような事情か教えてください。
- A：CBNC の資材不足とは具体的には消石灰。こちらも一時的なものであり、すでに解消している。
- Q：3点目として、材料事業は電池材料事業で建値差の好転を見込むという説明があったが、これは受払差で利益が動いたということと考えていいか。
- A：ご理解の通り、建値変動による受払差の好転を見込むことによるもの。

【質問者3】

- Q：材料事業の第4四半期の利益がかなり減る予想となっているが、受払差の影響などか、背景を教えてください。
- A：材料事業については、電池材料および粉体材料をはじめとする機能性材料各製品で主に減少しており、電池材料については先ほど説明した受払差などの増減が一部含まれているほか、粉体材料などでは第四半期の市況の落ち込みも一部見込んでいる。
- Q：2点目として、今回業績予想でシエラゴルドの権益譲渡に伴う一連の手続の影響額が700億円から740億円に引き上げられている。配当対象となる利益は、前回は700億円から454億円を引けばいい

という説明だったが、今回は同様に 740 億円から 454 億円を引くということで大丈夫か。

- A: 基本的にご理解の通り、前回第 2 四半期決算の電話会議において、改訂 IAS 第 28 号の適用によって 2019 年度の利益剰余金期首残高で調整した金額 (Sierra Gorda S.C.M. への貸付金等に対する貸倒引当金の累積的影響額の戻入に相当する金額) および過年度に貸倒引当金を戻入した金額を引いた金額が配当金算定の対象とならない金額と説明を差し上げていたが、考え方としては変わっていない。最終的な金額としては確定していないが、配当の算定から除くものとしてはそのような考え方となる。

【質問者4】

- Q: 第 2 四半期から第 3 四半期への各セグメントの利益変動について、特に資源・製錬で利益が減少している背景を教えてください。
- A: 資源では菱刈の数量の減少が大きい。製錬については、第 3 四半期は減販の影響が含まれている。
- Q: 2 点目として、現在石油価格が上昇しているが、コスト増は決算予想の中にどのように反映されているか、あるいは今後そういったリスクを考えないといけないうかが教えてください。特にコスト差のところでマイナスが出ているが、電力、石油の影響は大きいのか。
- A: コスト増については、定量的に示せる電力や原油高の影響ということかというと無いが、物流コストなどの影響が出てきている部分がある。

【質問者5】

- Q: 市況関係で、為替や硫酸、PGM 関係含め具体的にはどのように見るといいか。第 3 四半期累計実績の影響について定量的なヒントがあれば教えてください。
- A: 第 3 四半期累計の為替の影響については、「その他の為替差損益」として、金融収益のところでは前年同期は為替差損だったが今期は差益ということとしてプラス 72 億円の影響が出ているほか、相場要因の部分でも為替差で 31 億円のプラス、円安に伴う影響で合わせて前年同期比 100 億円程度のプラスだった。また、「その他」のうち硫酸について具体的な金額は控えさせていただくが、硫黄価格上昇に伴う好転で大きなプラスの影響があった。PGM については、今回はパラジウムなどの影響は大きくはない。
- Q: 2 点目として、再生可能エネルギーの対応、設備の自動化などカーボンニュートラルに向けた対応で、来年度以降に向けて南米鉱山などでコストがかかってくるところがあるか、どのように見ているか。
- A: 来年度以降のカーボンニュートラルに向けた取り組みについては、中期経営計画発表の中でご説明できればと思う。
- Q: 3 点目として、CBNC の権益を商社から取得したが、インパクトしてはどのような形か、またどのような狙いだったのか解説してほしい。
- A: CBNC の権益取得については、売買金額は 12 月の公表内容通りであるが、業績への影響は軽微。引き続き CBNC の長期操業を第一義に、金属事業、電池材料事業のバリューチェーンをより強固にするということでプロジェクト継続の施策を確実に実施するため、今回株式購入に至っている。
- Q: (鉱石の) オフテイクの数量については、影響はないという理解でいいか。
- A: 特に影響はない。

以上